

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立本所高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（総務部主任）＝事務局長、総務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、主任教諭（総務部主任）、主任教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路・探究担当）、主任教諭（1学年主任）、主幹教諭（2学年主任）、主幹教諭（3学年主任）、主任養護教諭（保健部主任）、計11名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）、PTA会長、同窓会会長、近隣中学校校長、近隣自治会長、地元保健センター長、非営利NPO団体（教育）代表 7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月23日（金）15:30～16:30 内部委員11名、協議委員6名
学校長あいさつ、協議委員の委嘱、委員紹介、学校運営連絡協議会設置の趣旨について、本校の教育活動における現状と課題について、意見交換
第2回 令和5年11月24日（金）15:30～16:30 内部委員12名、協議委員5名
学校長あいさつ、本校の探究活動を中心とした教育活動紹介、教育活動の中間報告、学校説明会の報告、学校評価の内容と項目を検討、意見交換
第3回 令和6年2月2日（金）15:30～16:30 内部委員12名、協議委員5名
学校長あいさつ、学校評価の報告及び学校運営に関する課題の提示、本年度教育活動の成果と来年度への課題等の提示、意見交換、協議員による学校運営への評価
- (2) 評価委員会（第1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和5年11月24日（金）15:00～15:30 内部委員5名、協議委員2名
評価委員の紹介、前年度アンケートの結果および課題の報告、協議
第2回 令和6年2月2日（金）15:00～15:30 内部委員4名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察の報告、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：751人 回収：635人 回収率：84.6%
 - ・12月 保護者全員 対象：751人 回収：460人 回収率：61.3%
 - ・12月 教職員 対象：42人 回収：28人 回収率：59.5%
 - ・1月 地域・住民 対象：50人 回収：42人 回収率：84%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、体罰・いじめ、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進等の評価項目を学校実態に合わせて設定する。

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足している。
- ・生活指導への理解や教員による相談対応にはおおむね満足している。
- ・生活指導は、保護者から約8割の支持を得ている。
- ・進学実績が上昇し、生徒に関しては進路指導への満足度も高いものとなった。
- ・体育祭や文化祭への積極的取り組みの項目については、感染症対策を行いながら、可能な限り従来の実施に近づけた結果、生徒からは最も高い評価が得られた。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・家庭学習の定着・習慣化への指導・援助、オンライン教材を活用した個別学習の積極的な導入などがさらに必要である。
- ・探究活動について、生徒の変容など活動の評価方法を検証し、改善につなげる必要がある。
- ・全教科での授業改善への取組が定着し、生徒の主体的な活動場面が随所に見られる。更に ICT 機器の活用、グループやペアワーク、積極的なオンラインでの学習を更に深めていく。
- ・生活指導や進路指導への了解度はおおむね肯定的であるが、今後、指導・活動項目とその内容の恒常的点検・修正が必要である。
- ・地域との一層の連携が必要である。教育活動を地域に積極的に PR し、理解と協力を得られる体制や地域の要望に応える柔軟な対応が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校から生徒への情報発信、学習動画の配信による主要教科の弱点の克服などスマートフォンやの活用により、「学校の進路指導へのあり方」に対する満足度の向上につながっている。ただし、指導の内容につながる情報発信を今後一層充実させていく必要がある。
- ・学校からの「通知」を受け取っているかという項目の評価が高いのは、1・2学年の Classi による保護者への配信によるものであると思われる。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ・生徒の学力向上と進路実現は、「家庭学習の充実」の指導・援助方法とともに、「教員の授業内容・指導方法の改善」にある。
- ・募集対策に向けての学校の情報発信の質的・量的改善が、本校受検者の増加につながった。
- ・「学校評価」実施の意義を再認識し、評価結果に基づく課題を教育実践ですすめる必要がある。
- ・スマートフォンに依存しがちな生徒が多く、家庭学習時間の減少につながっている。
- ・探究活動を導入して5年経ち、多様な入試制度への対応との関わりは増加したが、学校全体でどのように取り組むかは情報を整理し、今後も継続して検討していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校運営連絡協議会の成果と「学校評価」結果を「学校経営計画」の策定に反映させ、諸課題を教職員が、教育活動の高度化させることで改善する。
- ・PTA役員会・三者面談等からの保護者の要望を教育活動に反映させる。
- ・学期ごとの校内研修会を充実させる。

(2) 学習指導

- ・自宅学習時間をより一層の充実させるための指導・援助を図り、基礎学力を定着させ、さらに深い学びへと発展させる。
- ・主体的に学習する生徒の育成・より深い学びへの導きには教員の組織的な協力体制が必要である。

(3) 特別活動

- ・ボランティア活動・インターンシップ参加等の実践的な社会体験が、生徒の進路選択の幅を広げ、進路決定への一助になっている。

(4) 生活指導

- ・「落ち着いた校風の学校」を堅持し、「所属していることが誇れる学校」にするため、生徒の規範遵守の意識を一層高め、諸問題の発生を抑止する学校生活の実現を目標とする。制服の正しい着用や自転車交通マナーの周知等により、校内だけでなく校外での生徒の「振る舞い」の改善にも取り組む。

(5) 進路指導

- ・生徒の第1希望進路を実現するため、三進連・三者面談・進路講演会・出前授業等を活用し、生徒・保護者の理解を促進させる。また、ケース会議等で大学受験者への支援を強化する。

(6) 健康・安全

- ・生徒の心身の健康管理と校内美化に継続して取り組み、学校生活の安全を保つ。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員（評価委員）人数 7人

(2) 学校が良くなった答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	2	2			2	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 参加実績なし。

【成果】 上の理由により、成果なし。

8 その他

- ・文化祭や授業公開、公開講座はもとより、地域との合同防災訓練を通じて、地域との連携を更に深め、災害時の安全性を高めていく。
- ・スマホによる回答を導入し、保護者アンケートの回収率が大幅に上昇した。回収率を高めるための更なる工夫が必要である。
- ・生徒および教職員の回答率を向上させるための工夫が必要である。